

第3回滋賀の道路を考える懇談会

日時：平成23年9月5日（月） 10:00～12:00

場所：ピアザ淡海 滋賀県立県民交流センター 3階 305会議室

1. 開会

2. 出席者紹介

3. 懇談会

- (1) 第2回懇談会の概要
- (2) アンケート調査結果
- (3) マスタープランへの反映
- (4) 近江大橋、琵琶湖大橋の維持について
- (5) 中間とりまとめ
- (6) その他

○各委員からの主な意見等については以下のとおりである。

【道路整備や維持管理について】

- ・湖西について考えると今のところ国道161号しかないので、防災面からも2本目の早期開通が望まれる。
- ・まちづくりに道路は必要である。人口が減少している地域でも、道路が整備されれば若い人も通うことができるようになる。そのことにより、まちが活気づくと思う。
- ・大阪の道路の顔は御堂筋。同じように滋賀県の道路の顔を作ってほしい。
- ・道路標識の内容を舗装やガードレールに描くことによって、標識の数を減らすことができるのではないかと。
- ・滋賀県も観光に力を入れていくのであれば、道路の環境美化が継続的に維持できるようにすべき。
- ・木が覆い被さって通れない歩道がある。安全のためにも維持管理は重要である。

【マスタープランへの反映について】

- ・経済活性化には道路整備が必要である。思い切った道路政策をたてて全面的に打ち出していくべき。
- ・電柱を無くすことについて、アンケートでは重要度が低くなっているが、景観が良くなるし、歩行者や自転車も通やすくなる。
- ・遠方からの人は自転車を車に積んでやって来る。サイクリングロードを含めた環境整備を考えた場合、駐車場の整備も必要である。
- ・災害時には、広域農道も活用すべきであり、そのことも盛り込むべき。
- ・滋賀県では生物環境アドバイザー制度を活用しているので、そのことについても記載すべき。
- ・京都市では、以前、歩道橋が乱立していたが、今は歩道橋の撤去が進んでいる。そのようなことに関する県の方針などもマスタープランに盛り込んでいった方が良いのではないかと。
- ・政策目標と方策との対応がわかるように記載してもらいたい。
- ・公共事業において、地元企業の活用や地産地消を進めるべきであり、そのような考え方を盛り込めないか。
- ・自転車に関する改正について、もう少し具体的に記載すべきではないか。

【客観的評価マニュアルについて】

- ・人口集中地区を評価項目にすることを検討してもらいたい。
- ・事業評価監視委員会におけるB/Cなどの検討資料を活用することはできないか。

【近江大橋・琵琶湖大橋の維持について】

- ・必要な維持管理費を税金で賄えるようにしていくべきだが、料金を下げて、無料開放になる時期を先に伸ばすことも一つのアイデアだと思う。そうすれば、料金収入で維持管理費用を賄うこともできる。
- ・橋は老朽化するものであり、永久には使えない。架け替え時の資金についても考えておくべき。そのために、有料を継続することも一つの案ではないか。
- ・県外ナンバーと障害者について、無料化してもらいたい。
- ・利用者としては無料にして欲しいが、受益者負担が必要なのであれば、料金を下げることを考えてもらいたい。
- ・僅かな料金にしてもらえれば、利用者としても受け入れられるのではないか。

【中間とりまとめについて】

- ・行政はこれまで困難な問題もクリアしてきている。アンケート調査で高い満足度を示すものもある。マイナスの面だけでなく、プラスの評価についても記載してもらいたい。
- ・琵琶湖大橋、近江大橋は滋賀県の道路ネットワークを考えるうえで欠くことのできないものである。
- ・一般の救急搬送を考えても、琵琶湖大橋と近江大橋は絶対必要な橋である。
- ・琵琶湖大橋には代替路がない。3次医療施設を利用する場合にも琵琶湖大橋は不可欠な道路である。
- ・両大橋は、災害時を考えてもかけがえのない道であり、通行不能にならないよう維持管理が必要である。
- ・両大橋については、しっかり財源を確保して、今までどおり十分な維持管理が行えるようにすることが必要である。
- ・県財政が非常に厳しい中、その解決にはさまざまな面から検討していかなければならない。
- ・両大橋の維持管理の財源確保については、今後とも十分に議論していくことが必要である。